

第一次大極殿院 広場

2014.1.7 - 3.18

平城宮第一次大極殿院は、これまでに区画の東半分と回廊部分を中心に、継続的に調査をおこなってきました。今回は、現在進行中の第一次大極殿院復原整備計画に伴って、大極殿前面部分の調査をおこないました。

調査の結果、奈良時代前半に大極殿と大極殿院南門の間をつなぐ南北通路が存在したことが、奈良時代後半には、西宮（称徳天皇の住まい）の前面に、7本の“ハタ”（幢旗）が立てられていたことが明らかになりました。



第一次大極殿院の前面でおこなわれた発掘調査。横に長い柱穴が、東西に5基・南北に2列見つかりました。

中山瓦窯

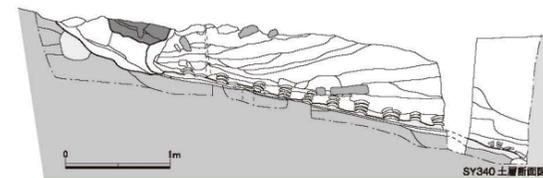
2014.1.21 - 2.10



今回見つかった3基の窯のうち、もっとも残りが良好な窯（SY340）。平行に並べられた瓦は、段の構築材として用いられたものです。

中山瓦窯は、平城京の北方に広がる奈良山丘陵におかれた瓦窯群のひとつです。1972年の発掘調査で瓦窯が10基発見され、主に第一次大極殿院など、奈良時代初頭から前半にかけての平城宮内の建物の瓦を焼いていたことがわかりました。

今回の調査は宅地造成に伴うもので、調査面積95㎡の範囲内に、3基の瓦窯が見つかりました。いずれも奈良時代前半に特徴的な箸窯（登り窯）で、1972年の調査で見つかった窯とは別斜面に位置していたこともわかりました。中山瓦窯の全貌解明に、一歩近づく調査となりました。



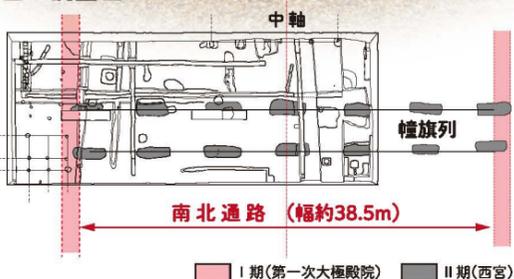
古代の瓦窯には、瓦をおく焼成室の床面が煙出しに向けて上昇する箸窯と、平坦な平窯とがありました。箸窯には、図のように瓦を安定させるための段が設けられます。

元日朝賀の“ハタ”の跡が見つかった!?

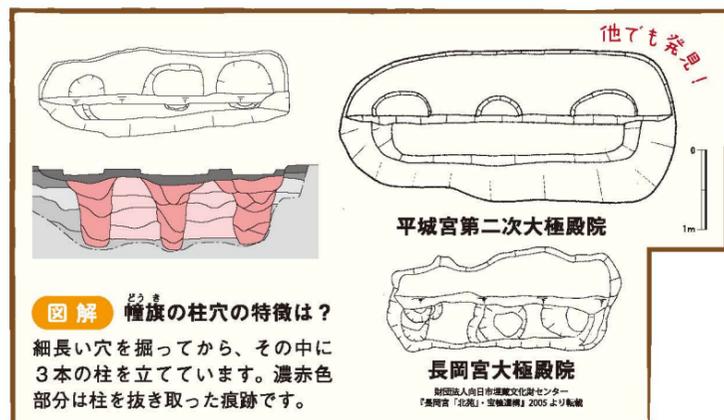


平安時代の法典『延喜式』によると、元日朝賀には、大極殿の前面中央に鳥形の幢、東側に日像の幢、さらに朱雀・青龍の旗、西側に月像の幢、さらに白虎・玄武の旗の合計7本の幢旗を立てるとされます。今回発見された柱穴と、隣接する調査区で見つかった柱穴とを合わせると、東西に7基が2列。さらに、柱穴同士の間隔も、『延喜式』に規定されたものに一致しました。

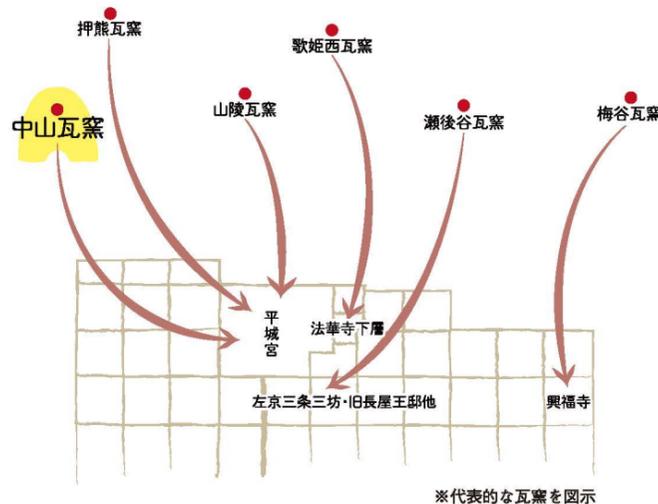
今回の調査区



幢旗の柱穴列は、西宮の時期のもの。2列あるのは、2回分あることを意味します。このほか、奈良時代前半の大極殿院と南門の間をつなぐ南北通路西側側溝も見つかりました。



第一次大極殿院に葺く瓦を焼いた工房!?



図解 都の建物の瓦はどこで作られた?

平城遷都に伴って、平城宮や京の建物に葺くために、膨大な量の瓦が必要になりました。そこで、平城京北方の奈良山丘陵に大規模な瓦工房を設け、瓦生産を集中的におこなったのです。なかでも平城宮や、経済力に富む大寺院は、専用の瓦工房を有していました。奈良時代を通じて、瓦の一大生産地であった奈良山丘陵。都から北を望む景色は、いつも煙で霞がかっていたかもしれません。



今回の調査では鬼瓦が5点見つかりました。全て同じ文様で、平城宮第一次大極殿院に葺かれたタイプのもので、写真は、瓦窯SY340で出土した3点。

平城京左京二条二坊 十一・十四坪

2014.2.3-2.18(524次) / 7.2-8.22(533次)



平城宮の東に隣接し、法華寺旧境内に南面する2地点で、宅地工事に伴う発掘調査をおこないました。いずれも南北に細長く、狭小な調査区ですが、二条条間路の南側溝、坪内を区画する塀や掘立柱建物の柱穴などがみつけられました。

注目されるのは、種類豊富な出土品です。524次調査では、奈良時代前半の東西溝から、首皇子(即位前の聖武天皇)に関わる役所の存在を示唆する木簡、漆や木製品生産に関わる遺物、多量の植物種実などが出土しました。533次調査では、彩り鮮やかな施釉瓦が数多く出土し、十一坪内にきらびやかな瓦葺建物が建っていた可能性が考えられます。平城宮に隣接する京の一等地にふさわしい調査成果となりました。

平城京の一等地には何があった!?



直径 15.4cm、厚さ 10.5cm の木の塊。底面に、5つの爪あがあるため、轆轤で挽物の器などを製作した際に、轆轤側に残った材と考えられます。当地に木工職人がいたのでしょうか。(524次)



剣のような形の木の棒の片側に、のこぎりの歯のようなギザギザを作り出したもの。長さは少なくとも 41cm あります。「ささら」とよばれる楽器ではないかと考えられます。(524次)



左京二条二坊十一坪は、平城宮・京の中でも施釉瓦の出土が突出して多いエリアです。本調査も例にもれず、64点もの施釉瓦(緑釉単彩・二彩・三彩)が出土しました。(533次)



土師器の杯のフタの内面に、単層の建物が墨で描かれています。屋根の形は宝形造りで、両隅には風鐺らしき飾りが。下方にも墨点が見え破片であることが惜しまれます。(533次)



533次調査では、約20点の墨書土器が出土しました。中でも「上番」「上」と書かれたものが複数みつかっています。上番とは、当番勤務につくことを指す用語ですが、なぜ土器に記したのででしょうか。(533次)

十四坪北西隅でみつかった奈良時代前半の東西溝から、4355点もの木簡(98%は写真のような削屑)が出土しました。「皇太子」と読めるものや、「神亀」「養老」の年号が書かれたものが含まれ、首皇子に関わる役所の存在がうかがわれます。(524次)

平城宮跡資料館 二展示 平城宮跡資料館 2015 速報展

第1期
で展示する
調査地点

●中山瓦窯

第1期

2015. 12/5(土) ▶ 2016. 1/31(日)

第2期

2016. 2/13(土) ▶ 2016. 3/31(木)

入場無料・月曜休館

(月曜が祝日の場合は翌平日休館・12/28(月)~1/4(月)の間は休館)

時間：9時~16時半 ★入館は16時まで

場所：平城宮跡資料館 企画展示室

